

樫谷議員 おはようございます。それでは、通告してありました２点について質問をさせていただきます。まず旧海部病院の今後の利用について、お聞きいたします。新しい海部病院の移転がそこに迫っている中、旧海部病院を今後どのようにするのか課題となっています。牟岐町としての方針をもう決めているのでしょうかお聞きします。旧海部病院に新たな企業を誘致する等の模索しているようですが、どうなったのでしょうか。その後の進捗状況はどうなったのか、お聞きします。そこに迫っている新海部病院の移転、その後をどのように活用していくのか、町の方針を定めたいうで、議会も県会議員も一緒になって県に陳情に伺おうではないかと、前回の一般質問で提案してきましたが、町長から何の答えも聞こえてきません。まずこの庁舎をどうするか、南海トラフ大地震に備え、大きな課題と思いますので、私から提案したいと思います。まず、旧海部病院をあのまま役場として使用するには大きすぎます。私達の家でも大きい家には電気代等の費用が多くかさみます。電気代だけでもバカにならないと思います。今、海部病院の電気代がいくらかかっているのか、調べる必要があると考えます。また、昭和５６年の建物、これから、あちこちと修理が必要とされます。修理コストの問題。さらに、移転となれば、そのまま使用できません。リフォームに幾らかかるとは思いますか。まず第一に旧海部病院は、なぜ移転しなければならなかったのでしょうか。来たる南海トラフ地震に向け、川沿いに建つ旧海部病院は、海拔から言っても２階まで津波浸水の危険があるためではなかったのでしょうか。津波で浸水するところに役場を持っていけますか。町長は１０年、あるいは、１５年だけと聞いていますが、１０年から１５年に億単位のお金をドブに捨てられますか。緊迫財政のなか皆さんからの血税をもったいないと思いませんか。そこでこの際、県には旧海部病院を更地にいただき、その上に牟岐バイパス事業に出るのであろう残土を使用できないものか。その残土を盛土にして高台にする。その上にこじんまりとした人口の身の丈に合った役場を新築することを提案します。牟岐バイパス事業に関わり、残土処理に億単位のお金も軽減できます。そして、津波の想定した高さにする。しいては、近隣地域の皆さんの高台避難所にもなります。ま

た、ポルト店内の利益にもつながります。これから人口が大きく増えることはないと思われます。それゆえに大きな役場は無用と思いますが、町長の見解をお聞きします。つぎの質問に移ります。アサギマダラを牟岐町の観光名所に。国内でもすでにNEC大学など、いろいろな団体がアサギマダラを主役とした社会貢献プロジェクトが展開されています。アサギマダラを牟岐の学校に呼ぼうとプロジェクトを立ち上げ、2016年6月、牟岐小学生137名が中心になって学校並びに関係者の理解のもと発足しました。6月23日には、地元の中川さんの指導を受けて、子ども達の手でフジバカマを花壇に植えることができました。その後、暑い夏の中、草むしりや水やり等の当番をつくり、アサギマダラの到来を待つことになりました。「ほんまに来たアサギマダラ」10月13日の新聞報道にも大きく取り上げられ、花を育てて待ち望んでいた児童は喜んでいるとありました。町長もご覧になったと思いますが、その後、10月26日までの13日間、毎日のようにアサギマダラが顔を見せてくれたそうです。地元や国内外にもアサギマダラファンはたくさんいます。牟岐町の未利用資源を上手く活用すれば、牟岐にしかできない地域の活性化が可能だということを子ども達に教えられたのではないのでしょうか。この火を消すことなく、牟岐にしかできない持続可能な地域活性化につながると考えます。2017年の目標づくりに地方創生の新しい目玉として打ち出してはどうか。今後、長く続く企画として、子ども達、地域の人達をも巻き込んで、活性化に向け牟岐町の観光名所として取り入れてみてはどうか提案します。人口減少に歯止めがかからない、期待していたモラスコむぎのスキューバダイビングも閉鎖間近。鬼ヶ岩屋も休止の状態、段々寂しくなっていく牟岐町をどないかしたい、どないかせなあかん、そんな思いの牟岐町民が損得抜きでやろうではないかと闘志を燃やしています。行政がその手助けをしなくてどうするのですか。子ども達と地域の人達と全町民を巻き込んで行政、議会もそれぞれの立場で協力していいのではないでしょうか。そして、アサギマダラの飛ぶ町を牟岐町の観光名所にしてはどうか。町長の見解をお聞きいたします。以上、2件について答弁をお願いします。

枅富議長 福井町長。

福井町長 榎谷議員のご質問にお答えいたします。まず海部病院の今後の利用についてですが、本議会の所信でも申し上げましたように、海部病院の高台移転を目前に控えて、今、大きな懸案事項が空き家となる施設の跡地活用です。これまで県とも協議いたしましたが、県が主体的に利活用するのは難しく。まずは町が利活用を考えて欲しいとのこと。また、南海トラフ地震を控え役場を避難場所として指定解除したこと、この海部病院施設は避難場所として、何としても残す必要があり、解体できないのであれば、空き家として放置するのではなく、積極的に利活用するべきだと考えています。私は以前より海部病院の跡地は、町が主体的に利活用を考えるべきであると思い、最も計画を進めやすいのは、耐震性能を確保するため早期の移転を余儀なくされている役場を移転し、他の空きスペースに町内外の方がたの交流施設、観光物産施設、リハビリやウエイトトレーニングなどの健康管理施設、大雨のときの避難所として活用すべきであると考えていました。一方、津波のときに3、4階部分が使用できるとしても、やはり役場が津波の浸水区域になるのは問題であるとの意見もあり、現在、牟岐町役場庁舎耐震化移転等検討委員会を設置し、代替え案の検討を行っているところです。今後、他の役場移転案がまとまり次第、議員各位にも協議の上、あるいは、町民の皆様を含めた検討委員会を開催のうえ、今後の海部病院の活用計画を取りまとめてまいりたいと考えています。つぎにアサギマダラを牟岐町の観光に役立ててはどうかとのご質問ですが、議員ご指摘のとおり、牟岐町にアサギマダラが多く飛翔すれば、交流人口を増加させる効果が期待できると思います。また、副次的にはちみつきが取れるとか、耕作放棄地の景観がよくなるなどの効果も期待できます。したがって、私も観光振興に役立てたいという気持ちはありますが、この事業、基本的には行政主導で進めるべき事業ではなく、民間主導で進め行政が支援すべきである事業と考えています。今後は、住民の皆さま方とともにアサギマダラの好むフジバカマを植えていくなどの事業を個人的に私も参加しながら広げてまいりたいと考えています。以上です。

枅富議長 大森副町長。

大森副町長 私からは、役場移転の経緯の質問に町長の答弁の補足として、庁舎耐震化移転等検討委員会について報告します。前の議会で検討委員会を立ち

上げるということで、申し上げていましたが、第1回の検討委員会を11月に開催しました。その中で、まず、庁舎の耐震化、移転について検討しました。耐震化や現在地での建替えについては、あまり議論になりませんでした。移転の方向での検討となり、以前から町長が旧海部病院の活用について、言及していましたので、選択肢として残しながら、基本的には浸水区域外に移転すべきとの意見で一致しています。海部病院が津波の浸水区域から高台に移転した跡地に、防災の拠点施設であるべき役場庁舎を移すのは非常に問題がある。被災後のことを考えますと、浸水区域に庁舎があれば、公用車や設備などの被害を含め、復旧作業が行えない。浸水区域外に早急に候補地を選定するのが最良であると。今後この方針等を基本として検討していくことで第1回の委員会を終えています。当然のことですが、庁舎の移転につきましては、多額の財政的な負担が伴います。現在、町の基金残高については、約10億円です。この金額については、県下で最も少ないところとなっています。また、庁舎の建設については、有利な起債がありませんので、将来に負担を強いることになります。今後、検討委員会の回を重ね、早いうちに結論を出し、議員の皆様との協議や広く住民の皆さまとのご意見もお聞きしたいと考えます。

杣富議長 質問の2番、3番、4番の答弁が漏れています。

大森副町長 先ほど申しましたように、まだ病院等を利用するかどうかというような決定がされていません。その中で以前に海部病院、病院局からもだいたいの年間の経費とか、そういったのを聞いていましたけれども、委員会の中では、こういったリフォームの金額の検討とかは、まだそれに至っていません。以上です。

杣富議長 榎谷議員。

榎谷議員 再問いたします。旧海部病院の今後の利用については、ぜひとも今

のところでやるということは避けていただきたいと思います。壊す費用が億単位でかかります。もし、これを旧の海部病院を牟岐町がそのまま使うということになったら、10年、15年後に億単位で壊さなければならないということもありますし、先ほど申しましたリフォーム代とか引っ越し代、1回目の引っ越しがあつて、また、新しい庁舎へ引っ越しする。2回の引っ越し代が何千万円という引っ越し代が要ります。そういったことも踏まえまして、今の旧の海部病院をそのまま役場にということは、私は指摘したいと思います。その中で11月に検討委員会が設けられて、第1回の検討委員会がなされたということですが、人数や代表者はどのようなになっているのかお聞きしたいと思います。つぎにアサギマダラを牟岐町の観光名所にということですが、お手元に配布しました、この地図を見ていただきたいと思います。アサギマダラは気流に乗って太平洋、大川橋、国道55号線、栗蔭道、灘、内妻、出羽島、笹見、鬼ヶ岩屋、橋中川さん宅、牟岐町全域に来ると調べてくれています。補助金も何もないところで、これだけのことを調べてくれている有志の方が現在おられます。非常にありがたいことではありませんか。熱い思いの牟岐町民がおられるのです。この情熱を消すことなく続けてくれると考えます。牟岐町を観光名所にしてはどうか。町長が地方創生で一生懸命取り組まれていますけど、新しい目玉、新しいものがあまり目立たないように思います。過去にやってきたものをそのままそっくり入っているようなことも多いと思うのです。そこでアサギマダラの名所ということで、新しい目玉として、一つ地方創生の中で取り入れていただければと思います。先ほどおっしゃられましたけども、こういった詳しい地図まで作って、アサギマダラを研究してくださっている町内の方がいらっしゃる。その闘志を燃やしてくれている。先ほど一般質問でも言いましたけど、牟岐町がだんだんと尻下がりになっている。人口もそうですし、先ほど申し上げましたこともそうだし、そういった中で何とかしなければいけないという強い思いがあつて、このアサギマダラ、全国的にもファンも多いのです。だから、新聞にもアサギマダラのこと載っていると思うのです。そういったことで、町として取り組んでいるところがないので、牟岐町として取り組んでい

ただきたい。以上、再問します。よろしくお願いします。

枅富議長 福井町長。

福井町長 私からは、アサギマダラの件をお答えしますが、議員がおっしゃるとおり、地方創生は一定の効果はあると思います。ただ、行政として主体的に取り組むべき事業ではないということで、ご支援申し上げながら取り組んでいきたいと思っていますし、私も既に雑草を刈って来年度のフジバカマも植えるための準備もしています。その中で住民の皆さん一丸となってやるべき事業であって、行政が主導的に耕作放棄地をフジバカマを植えるような準備を進めていくというのは、偏った施策のような気がします。本来行政がやるべき業務をこなしながら、皆さま方の取り組みを支援するというようなスタンスで取り組んでまいりたいと思います。何もアサギマダラで一生懸命になっている方の火を消すということではありません。支援しながらやっていきたいということですので、ご理解いただきたいと思います。

枅富議長 大森副町長。

大森副町長 検討委員会のメンバーの再問ですが、要項では副町長、議会議員、住民代表、学識経験者、町職員ということでなっていますが、第1回目の検討委員会につきましては、6名で開催しています。ある程度、方針が決まってから人数を増やしていてもいいのではないかとということで、1回目の検討委員会については6名で発足しています。以上です。

枅富議長 樫谷議員。

樫谷議員 再々問となりますけども、海部病院は今のまま使うということは、ぜひ止めて欲しいということを強く要望いたしまして、また、アサギマダラ

は、町長、先ほど行政がどうのこうのするようなことではないというふうにおっしゃられましたけど、では、他の地方創生に取り組まれているものは行政が携わっていますよね。これは別に補助金をくださいとかそういうふうな団体ではないのです。そのために補助金をもらうとかいう団体ではないのです。10数年前に町が花を咲かせるというので、町内にプランターを置いてやったことがあると思うのです。記憶に残っている方もあると思いますけど、そういったことも町で取り組んでやっています。プランターでも家でも町内にできるのです。今、皆さんにお配りしました地図には、アサギマダラが既に飛んできているのです。毎年、これを見ましても牟岐町全体にかけてできるのです。それを町がやるべきことでないということは、少しおかしいと思うのです。他の地方創生のことで町が手助けしているのですから、町も行政も議会もこれに対して協力するという何を拒む必要がないと思うのですけど、そのところ、町長、再々質問しますけど、よろしくお願いします。

枅富議長 福井町長。

福井町長 繰り返しになりますが、行政が主体的に取り組まないということであって、ご支援はするということです。それと、今、地方創生は、教育と健康を2つの柱として進めています。教育については、サマースクールをはじめローカルハイスクールであるとか、非常に全国的にも特殊と言いますか、目立った取り組みも進めています。何も変わったところがないというのは、ご指摘が当たらないと思います。ですから、そういうふうな大きな目玉と比べて、アサギマダラを行政が主体的に進めていくというのは、非常に目標としたら小さいというか、だから、支援しながら進めていきたいということで何もおかしくないと思います。以上です。

枅富議長 榎谷議員。

樫谷議員 私としては、２０１７年の地方創生の中で、このアサギマダラを目玉として牟岐町の観光名所として取り組んでいただきたいということなのです。行政が何もかもしなさいというのではありません。今既に動いてくれている人がいるのですから、その人達に率先して、していただくというような形になりますけど、その人達だけではなくて、全町に広めようではないかという試みですので、それに行政が手を出しというのは別にいいと思いますけど、私はそう思います。２０１７年度にこれを進めていただきたいということを強く要望いたしまして、私の一般質問を終わらせていただきます。